
コナンの選択

みかポン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

コナンの選択

【Nコード】

N0374H

【作者名】

みかポン

【あらすじ】

コナンは何を選ぶのか？コ哀のためほかのカップリングが好きな方は見ないことをお勧めします。

コナンの選択〜1〜（前書き）

これは「哀」です。

コナンの選択〜1〜

「ばいばい!」

「ではまた明日!」

「じゃあな!」

いつもの交差点で少年探偵団の5人は二手に分かれる。

今は小学4年生。

2年前に黒の組織は壊滅したが、組織の押収物からはAPT X 4 8
69のデータは見つからず

未だコナンと哀は小学生の姿のままだ。

「なあ灰原、今日博士ん家行っていいか？」

「別にいいけど…どうして?」

「蘭が子供だからってコーヒーいれてくれねえんだよ」

「あら、あなた子供でしょ?」

「おめえなあ」

阿笠邸

コナンはわが家かというようにソファで寝転んでいる。

「はい、コーヒー。で?工藤君、なにかあったの?」

コナンは座りなおし、その横に哀が座る。

「なにかってなにがだよ」

「コーヒーはただの口実、何かほかの用があったんじゃないの?」

コナンはコーヒーを吹き出す。

「よくわかったな!」

にやりとしながら哀は言う。

「あなたの推理好きが映ったのかもね」

「おい！なんだよ推理好きって！！」

「博士なら学会で1週間ぐらいアメリカよ。フサエさんにも会いに行くって言うってたしもう少しかかると思うけど…」

「それはねえな」

「え？」

「だってよ、博士はお前のこと本当の娘、いや、それ以上に可愛がつてるからな。何かない限りゼッターきっちり帰ってくるぜ。」

「さすがね、探偵さん」

哀は微笑んだ。

(こいつ笑うとかわいいよな)

「このコーヒーうめえ！博士いいよな、いつもこんなコーヒーが飲めて。」

「おだてても何も出ないわよ」

(ハハハ、やっぱかわいくねえ)

「たまに飲みに来てもいいか？」

「たまにはいいけど。で結局本題は何なわけ？」

「ん？」

「ここに来た理由よ」

「ああそのことか。お前に相談があつてよ。」

「私に？意外な行動をとるものね」

「おい！」

「早く用件に言いなさいよ、こっちも暇ってわけじゃないんだから」

「あ、ああ。実はよ、相談するのは恋愛ことなんだよ」

「え！？！？！？」

「コナンが珍しいことを言うのでコーヒーをこぼしかけてしまった。」

「そんなに驚くなよな。こっちだって恥ずかしいんだからよ。俺っ

て色恋沙汰に疎いだろ？だからお前に聞いてんだよ。」

「あなた、自分が疎いってわかってたのね」

哀は笑っている。

コナンの選択〜1〜（後書き）

初の投稿です。変かもしれませんがそのところはご了承ください
（笑）

コナンの選択くそ (前書き)

コ哀ですのでほかのカップリングが好きな方は読まないことをお勧めします。

コナンの選択②

「あなた、自分が疎いってわかってたのね」
哀は笑っている。

「ああ、わかってたよ。で、相談のつてくれるのか？」

「コナンは苦笑している

「あ……でも、蘭さんのことなんですよ？」

哀の表情が曇り出す。

「まあそうなんだけど……でもお前に相談したいんだ。

もちろん蘭とあけみさんをダブらせてるのはわかってる。けど」

おもむろに哀は立ちあがる。

「わかっているならどうして私に聞くの？」

どうせ、やっぱり蘭さんが好きだから解毒剤を早く作ってくれとで

も言うつもりでしょう？」

「違う！お前に聞きたいのは」

「私地下室に行くわ。早く解毒剤作るから！」

哀は階段へと走り出す。

「ちよつと待てよ！哀！」

哀が立ち止まり顔がこわばる。

「工藤君、今なんて言った？」

「え、ちよつと待てって。」

「その後よ。」

「は？……あー！」

慌てふためくコナン。

「どうして哀って言ったの？」

「いや、夢でそう言ってたから……」

段々声が小さくなる。

「へえ？探偵さんはどんな夢を見てたのかしら」

哀は呆れたように言う。

「だからそれを相談に来たんだろ！」

「じゃあ、解毒剤を早く作れって急かしに来たんじゃなかったの？」

「ちげーよ。」

哀は少し言いすぎたかと思い反省した。

「ごめんなさい……」

「いいんだよ、おれが勘違いするような相談しに来たんだから」

「じゃあお話聞いわ。あなたが哀って呼ぶなんてどんなお話なのかしら？」

哀はいつもの調子を取り戻し、少し皮肉った。

コナンの選択くそ (後書き)

なんだか話がめちゃくちゃになってきましたね^^;

あたしこれでも…文才ないほうでして(これでもって(笑)(

長い目で見てくださいm)——) m

ロサンデルの選択〜〜（前書き）

トクです。

コナンの選択くま

「じゃあお話聞いわ。あなたが哀って呼ぶなんてどんなお話なのかしら？」

哀はいつもの調子を取り戻し、少し皮肉った。

コナンがしゃべりだす。

「始まりは2年前だよ。組織を潰しに行った後さ。

お前は俺と服部、ジヨディ先生についてきただろ？ APTX4869のデータを見つけたいって。

なぜかジンはお前がいるとすぐに見つけちまうから俺がお前の警護そしてジンが来た時に捕まえるためにお前といた。そうだっただろ？」

哀は少し顔をひきつらせたが話は聞いている。

「ええ、そうだったわね。」

コナンは話を続ける。

「で、やっぱりジンはお前の所に来た。そして俺を銃で撃った。

けどお前が俺をかばって撃たれた。それを見たジンは持っていたアジトの自爆装置を押し

自分で自分を撃って死んだ。なあ灰原、辛いのはわかるけどもうこの戦いは終わったんだ。

だからそんな辛そうな顔しねえでくれよ。」

そう言われて哀はやっと気づいた。自分が辛そうな顔をしていると。

「仕方ないじゃない。できればあの組織のことなんか思い出したくないんだから。

忘れるわけにもいかないけれど……。」

「ごめんな、いやなこと思い出させて。でももう少してこの部分は

終わるから。」

「いいのよ、相談を受けるって言ったのはごっちなんだし」
少し哀の表情が緩んだ。

「ありがとう。」

んで、俺もお前もがれきに埋もれた。確か…あれは服部が助けてくれたんだっとな。

俺はがれきに埋もれただけが、おまえは撃たれてた。

おまえは重体、おれは重傷と軽傷の間ってとこかな？」

「あなたって確か…1週間の入院だったわよね。軽傷じゃない。」

「心に傷を負ってんだよ。」

冷やかに笑う哀

「何言ってるのよ。」

「ハハハ、悪かったな。」

コナンの選択くっく (後書き)

また…メチャクチャかも (笑)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0374h/>

コナンの選択

2010年11月19日18時01分発行